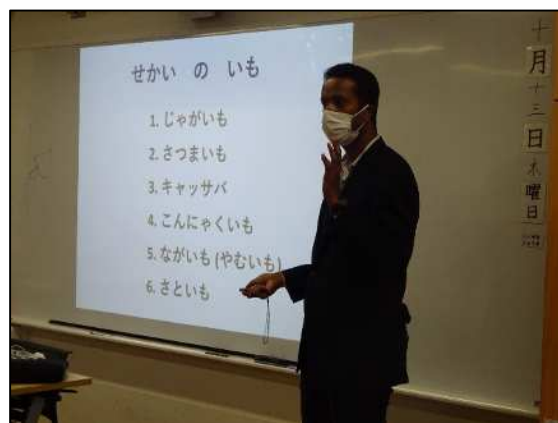


### 事前面接がはじまりました

10月11日(火)から、2023年度事前面接がはじまりました。廊下には面接をしているので、静かに通行するようという案内が出されました。子どもたちも、静かに歩こうとしてくれます(もちろん、思わず走ったり、大声を出してしまったりする子どもが絶えませんが)。中には、面接のときのことを思い出して、どんな気持ちだったかを話してくれる子どももいます。やはり、幼い子どもたちにとって入学試験は一大イベントだったのでしょうか。ひとしきり入学試験の思い出?で盛り上がった子どもたちは、また、グラウンドに駆けていきました。事前面接(オンライン)は、10月28日(金)まで続きます。

### おいもについて学ぶ

10月13日(木)、2年生は稲花タイムの時間を利用して、東京農業大学国際農業開発学科准教授のパチャキル バビル先生に、「いもの話」の授業をしていただきました。パチャキル先生の研究テーマは、熱帯作物の遺伝育種です。この日は、熱帯のいもであるヤムやキャッサバなどのお話を含め、世界にある様々ないもについて学びました。質問もたくさん飛び出しました。小さいいも博士たちが生まれた日でした。



### 各ご家庭で育つ稲

子どもたちから、持ち帰って育ったハツカダイコンの話を聞くことがあります。別の子どもは、持ち帰って育てているブロッコリーやキャベツの様子を話してくれます。稲刈りの季節、バケツ稲の報告も増えてきました。無事に収穫した話をしてくれる子どももいますし、研究レポートにまとめてくれる子どももいます。「枯れてしまいました」という子どももいます。植物ですから、枯れて

しまうことがあるのも勉強です。10月14日(金)には、東京農業大学にご用事のあった一般社団法人全国農業協同組合中央会(JA 全中)の若松常務理事と広報の方が、本校にお立ち寄りくださいました。バケツ稲ご寄贈のご縁があったことです。ちょうど手元に、一人の子どもから預かっていた研究レポートがありましたので、ご覧いただきました。

### サツマイモも落花生も豊作

10月15日(土)に開催された東京農業大学教育後援会主催の「第4回 親子 芋掘り・落花生掘り体験」は、お天気が心配されましたが、無事に実施されました。場所は、松原圃場。1年生はサツマイモ(ベにはるか)を、2年生は落花生(千葉半立)を収穫します。1年生も2年生もその参加者はそれぞれ60家族を越え、それぞれがスコップを持って楽しそうに収穫に臨みました。

教育後援会の役員が受付や進行を務め、東京農業大学国際農業開発学科熱帯作物学研究室の学生や院生がボランティアで駅から圃場への道案内や、作業の補助をしました。また、農大稲花小の「畑の先生」である湯浅氏にも、収穫の方法や収穫処理に教えていただきました。校長はサツマイモと落花生について、ミニ講義をいたしました。収穫後は、重さを競う「おもしろいも賞」や奇抜な形を競う「おもしろいおもしろい賞」が子どもたちに授与されました。また、落花生については殻を使ったアートの実験を行う予定とのことでした。

新型コロナウイルスがまん延して以来、保護者の皆様とお目にかかる機会は本当に少ないのです。今回は屋外ということもあり、また、感染防止のために学年を分けるなど、教育後援会の皆様のご尽力があって実現した催しです。ご尽力、また、ご協力いただいた方々に感謝します。保護者の皆様も、学級ごとに懇談する時間を楽しんでおられました。なお、3年生、4年生の保護者向けには別の企画を準備中とのこと。こちら楽しみです。

東京農業大学稲花小学校  
校長 夏秋 啓子